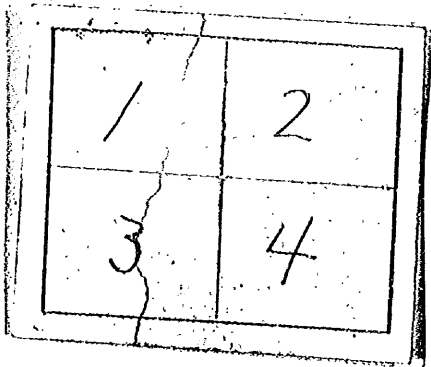


分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0616
0617
0618
0619

部隊原簿

部隊原簿

部隊原簿

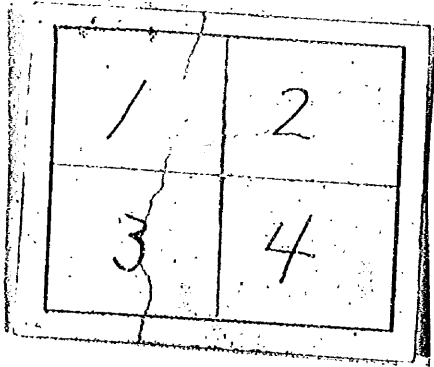
第一一二師團

部隊原簿

第一一二三師團

3A

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0620
0621

0622
0623

第三軍第一一二師團司令部

通稱 公一〇三一八五〇

郵便所名

全般概要

轉入
十九年以降

轉出
十九年以降

員人編

別隊

隊長名
(内は先代を示す)

開人
戦員

駐屯地
平時
戦時

戦闘間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より
入ソ連の變動

入ソ人員
隊別計

滿洲残留

收容所名

八、一四
政務奉街に進入す

八、一七
各師團司令部に轉入す

八、一八
午前三時敵偵察機一機來襲

八、一八
午前四時敵偵察機一機來襲

八、一八
午前六時敵偵察機一機來襲

八、一八
午前八時敵偵察機一機來襲

八、一八
午前十時敵偵察機一機來襲

八、一八
午前十二時敵偵察機一機來襲

八、一八
午後二時敵偵察機一機來襲

八、一八
午後四時敵偵察機一機來襲

八、一八
午後六時敵偵察機一機來襲

八、一八
午後八時敵偵察機一機來襲

八、一八
午後十時敵偵察機一機來襲

八、一八
午後十二時敵偵察機一機來襲

八、一八
午後二時敵偵察機一機來襲

八、一八
午後四時敵偵察機一機來襲

八、一八
午後六時敵偵察機一機來襲

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

收容所名

部隊名 第一一二師團司令部

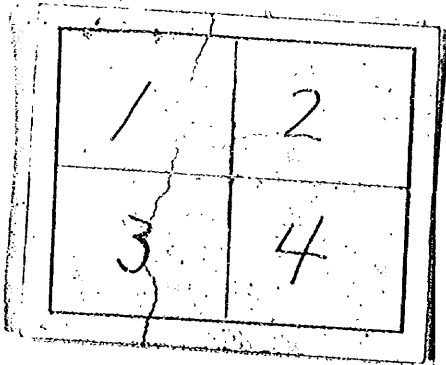
通稱號 公二〇三二一八五〇

郵便所名

軍	部 理 經	部 器 兵	部 謀 參	部 理 管	部 官 副	別 隊	
						隊 長 名	開 人
部長少佐 渡邊	部長少佐 林 好英	部長大尉 古川儀兵衛	參謀長 安木 龜次		師團長 中將 中村次喜藏 高級副官 少佐 富澤	() 内は先代を示す	
						時 員	駐 屯 地
						平 時	砲 台
						戰 時	砲 台
							戰鬥間の状況及損耗
							終戦後の人員變動
							作業大隊より入ソノ迄の變動
							隊別 入ソノ人員
							滿洲殘留
							收容 所 名
							所 入
							死 亡
							滿洲より領
							計
							者 數

部 隊	部 隊	部 隊	部 隊	部 隊	部 隊	部 隊
部長少佐 小田	部長少佐 渡邊	部長少佐 林 好英	部長大尉 古川 儀兵衛	参謀長 安木 龜次		中將 中津次高澄 高級参謀 少佐 宮澤
						春 永
						電江密
						二〇、九、一、令
						久田見大尉(一)の 二〇、九、一、令 大田見大尉(一)の 命令「ソラキ」に 二〇、一〇、二、令 「ソラキ」に 二〇、一〇、二、令 「ソラキ」に 二〇、一〇、二、令 「ソラキ」に 二〇、一〇、二、令 「ソラキ」に
						参謀二名(河合、時) 方不明
						兵衛部員
						司令部長(見士 准士) 「ハロワ」 方面に收容する 久田見大尉はコ ンクリメント第二 容所に收容する 「ハロワ」 第三分科

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

03226
03227
03228

第三軍第一一二師團部隊名 歩兵第二四六聯隊 (一)

通稱號 公二〇三二二〇〇

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	編制人員	隊別	隊長名	開人	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソの變動	入ソ人員	滿洲殘留	收容	
<p>本陣地は本二大隊三大隊、第一大隊奉化望湖山に於て、</p> <p>八、九、夜半戦斗状態に入る。</p> <p>四日間の戦斗後一ヶ中隊全隊一大隊は完全に包圍されたる模様あり。</p> <p>十里坪附近で三大隊發射兵「ソ」に投降す。</p> <p>二大隊は最後迄陣地に在りて新込隊として第一次第二次新込を敢行す(八、一八)。</p> <p>八、二五、停戦當時部隊の半数山中に入りたるも後日捕虜となつた模様。</p> <p>八、二七、部隊解散。</p> <p>十里坪四軒附近武裝解除に各中隊の一部の者が逃亡軍隊は燒却部隊隊の小片を配分各自内地に逃す持物のやうとの事。</p> <p>二大隊と一、三大隊の特一五名隊の「部」として收容され、奉化望湖山に於て收容す。</p>		十九年以降	十九年以降	2409	聯隊本部	大佐 山本 俊威	開人 戦員	十里坪	十里坪	<p>二〇、八、八、戰鬥開始と途次後退中北裏谷に於て二ヶ師團と激戦、大隊として殲滅。</p> <p>八、一五、一、大隊は全部合流し十里坪に退き、十里坪に向ふ。</p> <p>二〇、九、一四、武裝(間島)。</p>	<p>石井大尉以下殘留者は金着に收容さる。</p>	<p>作業二〇大隊編成</p> <p>長 山田少尉</p> <p>二〇、九、一〇、金着に於て作業五一大隊を編成</p> <p>長 岡克巳大尉</p> <p>(一、二、三、四中隊)</p>	入ソ人員	滿洲殘留	<p>一〇、三〇、ホルモラン第一〇八收容所へ</p> <p>二一、二三、ラーダ收容所に收容</p> <p>七、二九、</p> <p>「ラーダ」出發</p> <p>八、二、</p> <p>「キズネール」出發</p> <p>八、六、</p> <p>「エラブカ」收容</p>
隊中二第	隊中一第				第一大隊本部	大尉 石井 常吉	開人 戦員	十里坪							
					第二中隊	中尉 千葉	開人 戦員	山城							
					第三中隊	中尉 宮野 岩吉	開人 戦員	山長防	<p>八、八、奉化出陣本隊十里坪へ向ふ所途中北裏谷十五軒附近にて八、一六敵の裝甲自衛隊の砲火に遭つて戦死す。敵を撃退後隊は兵力を増強し十里坪に陣取り、八、一九敵軍命令を下し各個人又は三五本隊にひき寄せす。</p>						

中 二 第		隊 中 一 第		部 本 隊 大 一 第		部 本 隊 聯		員 人 制 編	
長 中尉 宮野 岩吉		長 中尉 千葉		大尉 石井 常吉		大佐 山本 稜威		隊 長 名 (内は先代を示す)	
山長防		山城旺		坪里十		坪里十		駐 屯 地 平 時 戦 時	
八、八、春化出隊本隊十里坪、向ふ所助中、北葦子十五軒附近にて八、一六隊の装甲自、砲車の本一門に遭遇戦を開始す戦を撃、退隊は兵力を殆ど夕霧雨降となり戦斗は、益々激戦八、一九隊命令を下し各個人又、は三々五々本隊にひ集結す				二〇、八、八、戦斗開始と途次後進中北葦、嶺に於て二ヶ所圍と激戦、大隊として殆ど、容れず終了後各員四散、 八、一五、一、大隊は全部合流し十里坪、向ふ、 十里坪に向ふ、 二〇、九、一四、武解(間島)				戦闘間の状況及損耗	
				石井大尉以下残存者は金着に收容さる				終戦後の人員變動	
				作業二〇大隊編成 長 山田少尉 二〇、九、一〇、金着に於 て作業五一大隊を編成 長 岡克巳大尉 (一、二、三、四中隊)				作業大隊より 入「ソ」迄の變動	
								入「ソ」人員 隊別 計	
								滿洲残留	
				一〇、三〇 ホルモリン第一〇 八收容所へ 二、一三 ラーダ收容所に收 容 七、二九 「ラーダ」出發 八、二 「キズネール」出 發 八、六 「キラツカ」收容 所				收容所名	
								人員所入	
								死亡	
								滿洲より ソ連より	
								計	
								歸還人員	
								者 狀況不明 数	

部隊名 歩兵第二四六聯隊 (一)

通稱 號 公 滿 二 一 三 一 二 二 〇 〇

郵便所名

八、九
夜半時分、突撃に入る。

八、二五
管轄臨時部隊の半数山中に入らるも、後日捕獲となつた模様。

八、二七
部隊解散。

八、二八
十里坪四村附近武蔵野川各中隊の一部の者が逃亡軍旗に纏わりつき、小片を断り、各自別隊に必ず持参するやうとの事。

八、二九
二大隊と一、三大隊の約一五各隊の「一部」として收容され、倉庫に搬送された。

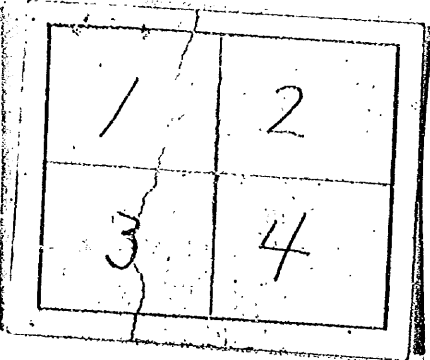
八、二九
二大隊は母後連隊地に在りて新編隊として第一次第二次新編を發行す(八、一八)

隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部 本 隊 大 一 第	部 本 隊 聯
長 中尉 吉澤	長 中尉 宮野 岩吉	長 中尉 千葉	大尉 石井 常吉	大佐 山本 俊成
山 前	山長防	山城旺	坪里十	坪里十
				春 章
	八、八、岩化出隊本隊十里坪へ向ふ所途中、北見子十五軒附近にて六、一六隊の装甲車、運送隊に兵力を差懸け、新編隊となり戦死に終つた。八、一九、激戦命令を下し、各個人又は三々五々本隊にひき返す。		二〇、八、八、戦半開始と途次後進中北見、敵に於て二ヶ所圍と激戦、大隊として必死、管轄半隊丁後全員四散。 八、一五、一、大隊は本部合流して十里坪、十里坪に向ふ。 二〇、九、一四、武蔵(閉隊)	
			石井大尉以下戦死者は倉庫に收容さる。	
			作案三〇大隊編成 長 山田少尉 二〇、九、一〇、倉庫に於て作案五十一大隊を編成 長 田中少尉 二〇、九、一三、田中少尉	

一〇、三〇
ヘルモリン第一
八收容所へ
二一、一三
ラーダ收容所に収
容
七、二九
「ラーダ」出發
八、二一
「ギズネール」出
發
八、六
「ニラブカ」收容
所

隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部 本 隊 大 一 第	部 本 隊 騎
長 中尉 吉澤	長 中尉 宮野 岩吉	長 中尉 千葉	大尉 石井 常吉	大佐 山本 義徳
山 前	山長防	山城旺	坪里十	坪里十
				春 草
	八、八、奉化出發本隊十里坪、向ふ所動中、北支子十五番附近にて八、一六隊の装甲車、砲車の砲本一門に遭遇戦を開始す敵を撃退後隊に兵力を分散す砲車隊となり戦斗に益々激戦八、一九隊命令を下し各個人又は三五々本隊にひ集結す		二〇、八、八、戦半開始と奉化後途中北支子に於て二ヶ師團と激戦、大隊とじて以て激戦半終了後全員四散 八、一五、二、大隊は全部合流し斗澤平田、十里坪下向す 二〇、九、一四、武勝(閉隊)	
			石井大尉以下騎騎者は合流に收容さる	
			作樂二〇大隊編成 長 山田少尉 二〇、九、一〇、合流に於て作樂五一大隊を編成 長 岡宮巴大尉 (一、二、三、四中隊)	
			一〇、三〇 ヘルモラン第一〇 八收容所へ 二一、二三 ラーダ收容所に收 容 七、二九 「ラーダ」出發 八、二 「キズネール」出 發 八、六 「キラブカ」收容 所	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

部隊名 歩兵第二四六聯隊 (二)

通稱 號 滿二〇三一二〇〇

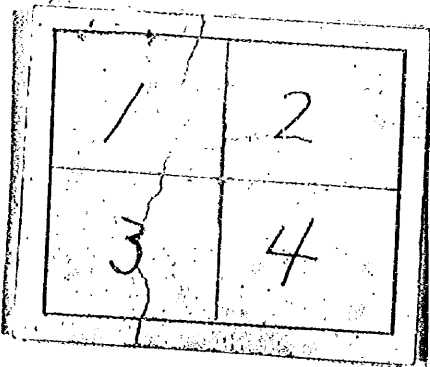
郵便所名

隊別	隊長名 (内は先代を示す)	開入 戦時 人員	駐屯地		戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別計	満洲残留	收容所		満洲より 領計	状況不明 者数
			平時	戦時						收容所名	所入 死亡		
第一機銃隊	長 中尉 竹島												
歩兵小隊	長 少尉 佐々木				八、九 師団により奉化より轉進後、子に 尚途北荒涼に於いて敵と遭遇す大隊長直 轄となり大隊本部の警戒に任ず 戦死六、行方不明二 優劣なる敵のため包圍され聯隊本部所在地 へ前進行方不明六 八、二八 中隊子にて武解		二〇、九、三、金蓋收容所 二〇、九、三〇、馬島收容 所 二、二〇、養春收容所 一、二、一「入ソ」 赤松大隊の行動?						
第二大隊本部	長 大尉 久田見環				開戦と同時に密着地にあつた 八、九、各陣地配属につく 八、一二、瑛瑯峯方面より前進する敵に攻 撃受勢 八、一四、より攻撃師団長の指揮に入る 二大隊として戦死三〇、負傷一〇〇〇 香江屯にて武解								
第四中隊	中尉 丸山				八、二二、匪賊になるべく山中に逃								

隊 中 五 第	隊 中 四 第	部 本 隊 大 二 第	隊 小 砲 兵 歩	隊 銃 關 後 一 第
中尉 上原 清夫	中尉 丸山	長 大尉 久田見 環	長 少尉 佐々木	中尉 竹尾
<p>小笠原山に陣地を築き、内攻班一五名を密着隊に派遣(中村伍長)</p> <p>八、一七、中村内攻班は、砲車三台を押し、内攻を実施す、三名戦死、主陣地に後退すことして八、二二、三名一組の新込隊を以て、中隊として戦死七名</p>	<p>八、二三、匪賊になるべく山中に逃亡</p>	<p>砲隊と同時に密着隊にあつた</p> <p>八、九、各陣地砲隊につく</p> <p>八、一二、攻取方面より前進する敵に攻撃態勢</p> <p>八、一四、より攻撃砲隊長の指揮に入る</p> <p>二大隊として戦死三〇、負傷一〇〇</p> <p>密着隊にて戦死</p>	<p>八、九 砲台より弾化より前進隊を率いて前進北進隊に於いて敵と邂逅シ大砲隊を結となり大隊本部の警戒に任ず</p> <p>戦死六、行方不明二</p> <p>後退する敵のため包圍され、密着隊本部所在地へ前進行方不明六</p> <p>八、二八、中隊子にて武解</p>	
			<p>二〇、九、三、金巻攻撃所</p> <p>二〇、九、三〇、岡島攻撃所</p> <p>二、二〇、藤巻攻撃所</p> <p>二、二一、八、入</p> <p>密着隊の行動?</p>	

隊 中 五 第	隊 中 四 第	部 本 隊 大 二 第	隊 小 砲 兵 步	隊 銃 關 機 一 第
中尉 上原 溝夫	中尉 丸山	長 大尉 久田見 環	長 少尉 佐々木	長 中尉 竹尾
<p>小森嶺上に陣地を築き肉攻進一五名を奮勇 討つ敵隊(中尉位長) 八、一七、中村隊は機銃三台に對し肉 攻を實施す、三名戦死、主陣地は後退し して八、二二、三名一組の新込隊を以て機 中隊として戦死七名</p>	<p>八、二二、匪賊にならるべく山中に逃亡</p>	<p>開戦と同時に密着地にあつた 八、九、各陣地砲隊につく 八、一二、砲理奉方砲より前進する敵に攻 撃態勢 八、一四、より攻撃砲隊長の指揮に入る 二大隊として戦死三〇、負傷一〇〇 谷江屯にて武解</p>	<p>八、九 砲台により奉化より前進する 前進北軍砲隊に對して敵と進退す大砲隊 となり大隊本部の警戒に任ず 戦死六、行方不明二 優勢なる敵のためを阻まれ大隊本部所を退 へ前進行方不明六 八、二八 中隊子にて武解</p>	
			<p>二〇、九、三、金蓋收容所 二〇、九、三〇、開島收容 所 二、二〇、機銃收容所 一、二、一、一、入所 大隊の行動。</p>	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0633
0634
0635
0636

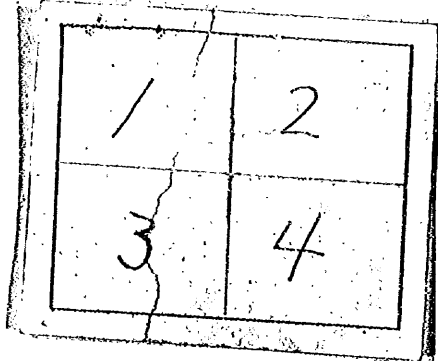
第三軍第一二師團部隊名 歩兵第二四六聯隊 (三)

通稱 公滿二〇三三二〇〇

郵便所名

全般概要				編制人員	隊別	隊長名 (内は先代を示す)	駐屯地 戦時 平時	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ返の變動	入ソ人員 隊別計	満洲残留	収容
轉入 轉出 十九年以降					第三大隊中隊			八、二〇、一大隊の指揮下に入る 八、二一、各五〇各挺進路に出る					
第三大隊本部					第三機關銃隊								
歩兵小隊													
八、二六、まで戦はず													

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0637
0638
0639
0640

第三軍第一一二師團部隊名 步兵第二四六聯隊(四)

通稱 公満二〇三二二〇〇

郵便所名

全般概要							編制人員
轉入							轉出
十九年以降							十九年以降
別隊							隊長名 (内は先代を示す)
歩兵	隊中通信	隊小砲兵歩	隊銃關機三第	隊中九第一	隊中八第	隊長 中尉 村尾	開入 戦時 平時 戦時 戦時
中尉 佐藤 國房	少尉 小原 正孝		中尉 上野	少尉 今井 正		(内は先代を示す)	駐屯地 嶺荒嶺北
戦闘間の状況及損耗							終戦後の人員變動
<p>遊撃隊を編成(三ヶ分隊) 八、九、戦時開始一八日發遣一大隊隊員と 合隊二十二日十里坪本務に合流戦死九名</p> <p>二〇、八、一三、部隊は豫泰東方陣地に配 属され 八、一四、開戦となるや敵の戦車約三〇〇 輛を持って豫泰と奉化の中間地區に進出し激 烈な突進攻撃が展開され 二〇、八、一八、迄豫泰上中隊の損害約半 數に達し初年兵五〇名は脱出した</p>							<p>全隊を移動</p>
作業大隊より入ソの變動							入ソ人員
隊別計							滿洲殘留
收							收

部隊名 歩兵第二四六聯隊 (四)

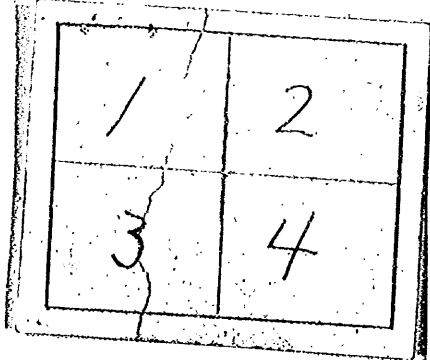
通稱 公満二〇三二二〇〇

郵便所名

編制人員		別隊	隊長名 ()内は先代を示す	開入 戦時員	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソシ迄の變動	入ソシ人員 除別計	滿洲残留	收容所名	收容所 員所入	死亡	滿洲より ソ領より	歸還人員 計	状況不明 者数
隊中	通信															
隊中	通信	隊中	第八隊	中尉 村尾	嶺北嶺	遊撃隊を編成(三ヶ分隊) 八、九、兩連隊は一八日發進一大隊連員と 合流二十日十里坪本部に合流戦死九名	全隊を移動	全隊を第一二大隊 長 朝太郎	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領
隊中	通信	隊中	第九隊	少尉 今井 圭		遊撃隊を編成(三ヶ分隊) 八、九、兩連隊は一八日發進一大隊連員と 合流二十日十里坪本部に合流戦死九名	全隊を移動	全隊を第一二大隊 長 朝太郎	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領
隊中	通信	隊中	第三機銃隊	中尉 上野		遊撃隊を編成(三ヶ分隊) 八、九、兩連隊は一八日發進一大隊連員と 合流二十日十里坪本部に合流戦死九名	全隊を移動	全隊を第一二大隊 長 朝太郎	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領
隊中	通信	隊中	歩兵小隊	長 小原 正孝 少尉		遊撃隊を編成(三ヶ分隊) 八、九、兩連隊は一八日發進一大隊連員と 合流二十日十里坪本部に合流戦死九名	全隊を移動	全隊を第一二大隊 長 朝太郎	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領	ソ領

隊小馬乘	隊中砲兵歩	隊中信通	隊小砲兵歩	隊銃關機三第	隊中九第	隊中八第
	中尉 佐藤 國孝	長 少尉 小原 正孝		中尉 上野	少尉 今野 三	中尉 海野
	第一連長 佐藤 國孝 第二連長 佐藤 國孝 第三連長 佐藤 國孝 第四連長 佐藤 國孝 第五連長 佐藤 國孝 第六連長 佐藤 國孝 第七連長 佐藤 國孝 第八連長 佐藤 國孝 第九連長 佐藤 國孝 第十連長 佐藤 國孝	中隊は軍令により國境線の右線を撤収 八、九、ノ軍の攻撃を受け直に隊境間の右 線側の撤収		二〇、八、二、ノ部隊は獨逸東方陣地に配 属せしめ 八、一四、ノ部隊は獨逸の森本約三〇〇 編を待て獨逸と露北の中間地帯に進出し極 度の寒害攻撃が展開され 二〇、八、二、八、を襲撃した中隊の損害約半 隊内鮮系幼年兵五〇名は脱出した	二〇、八、二、ノ部隊は獨逸東方陣地に配 属せしめ 八、一四、ノ部隊は獨逸の森本約三〇〇 編を待て獨逸と露北の中間地帯に進出し極 度の寒害攻撃が展開され 二〇、八、二、八、を襲撃した中隊の損害約半 隊内鮮系幼年兵五〇名は脱出した	二〇、八、二、ノ部隊は獨逸東方陣地に配 属せしめ 八、一四、ノ部隊は獨逸の森本約三〇〇 編を待て獨逸と露北の中間地帯に進出し極 度の寒害攻撃が展開され 二〇、八、二、八、を襲撃した中隊の損害約半 隊内鮮系幼年兵五〇名は脱出した
	全隊を移動				全隊を移動	
	全隊を撤収す				全隊を撤収す 長 駒 大 尉	
	片				片	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0641
0642
0643
0644

第二軍第一二二師團部隊各步兵第二四七聯隊(一)

通稱 號 滿 二〇三二二五

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人編編	別隊	隊長名	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソの變動	隊別計	滿洲残留	收容
<p>二〇、八、七、 師團の第一師團命令ありて 防禦陣地占領準備 八、九 第一師團命令戦斗に入る 八、九 ソ軍の攻撃により第一師團 或師團隊戦斗主力は主陣地 により攻撃の攻撃を拒止 (八、一七迄) 二〇、八、一八 金澤に於いて高解</p>		十九年以降	十九年以降	2409	第一聯隊	大佐 西村 逸雄 (内は先代を示す)	家 孫 吉 延 春 環	<p>環環鎮戒の間水邊にあり八、八、午前四時 王家子の分遣隊は夜間敵の攻撃を受け九日 朝には環環に侵入した分遣隊はPGが出た がばらばらになり水邊に於ける本隊の戦斗 は八、一八より 八、二一、午前敵軍二〇歩兵一ヶ隊隊と 交戦 八、二一、陣地環環環環二〇歩兵一ヶ隊隊 と交戦戦斗五合一八日迄戦斗す 戦死一〇名、負傷不詳 (包圍されたため相違ある見込)</p>	<p>八、一八、(終戦後)永安附近に集合しつ ありたる夕刻後方にて馬が狂奔したるた め日本軍の遺棄と誤認され銃小銃を以つて 築結部隊を射撃し</p>	<p>二〇、九、一、 金澤に於て作業五二大隊 後一五二大隊を編成す 大隊長 石川文子郎</p>	隊別計	滿洲残留	收容
<p>八、二八 將校と士官兵分隊 九、二五 金澤と間島間將校機關(四 四名) 將校は孫春一金若一岡島ト リ「入ソ」</p>					第一聯隊	少佐 前田 房夫		<p>死者二五、負傷一〇〇行方不明、一〇〇名 生ず</p>					
<p>二〇、一、一、 「クラスキー」隊 二〇、一、二、五 同發 二〇、一、一、四 二〇、一、一、三 二〇、一、一、二 二〇、一、一、一 二〇、一、一、〇 二〇、一、〇、九 二〇、一、〇、八 二〇、一、〇、七 二〇、一、〇、六 二〇、一、〇、五 二〇、一、〇、四 二〇、一、〇、三 二〇、一、〇、二 二〇、一、〇、一 二〇、一、〇、〇</p>					第二聯隊	井上							
<p>二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇 二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇</p>					第三聯隊	橋本							
<p>二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇 二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇</p>					第四聯隊								
<p>二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇 二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇</p>					第五聯隊								
<p>二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇 二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇</p>					第六聯隊								
<p>二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇 二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇</p>					第七聯隊								
<p>二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇 二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇</p>					第八聯隊								
<p>二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇 二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇</p>					第九聯隊								
<p>二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇 二〇、一、一、一 二〇、一、一、二 二〇、一、一、三 二〇、一、一、四 二〇、一、一、五 二〇、一、一、六 二〇、一、一、七 二〇、一、一、八 二〇、一、一、九 二〇、一、一、〇</p>					第十聯隊								

隊名歩兵第二四七聯隊(一)

通稱 號 滿
公 一〇三二二五

郵便所名

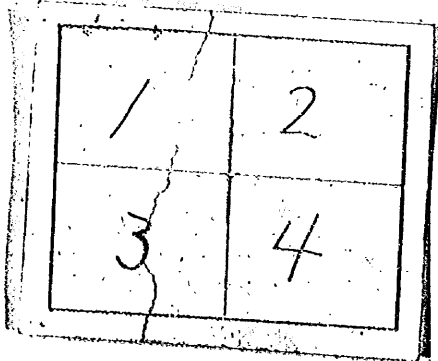
別 隊	駐 屯 地	戦 斗 間 の 状 況 及 損 耗	終 戦 後 の 人 員 變 動	作 業 大 隊 以 前 の 入 ソ 運 の 變 動	入 ソ 運 人 員 隊 別 計	滿 洲 殘 留	救 容 所 名	所 入 死 亡	歸 還 人 員 計	狀 況 不 明 者 數	
少佐 前田 房夫 大佐 西村 逸雄 (内は先代を示す)	家 孫 吉 延 環 吉 春	豫奉洲戒の南水海にあり八、八、午前四時 王家子の分遣隊は夜間露の攻撃を受け九日 朝に豫奉に侵入した分遣隊はPGが出た がはらぐにたり水邊に於ける本隊の戦 八、一八より 八、一、午前四時三〇分歩兵一ヶ隊と 交戦 八、一二、陣地砲撃隊三〇歩兵一ヶ隊 と交戦砲撃五廿一八日迄戦つた 戦死一〇名、負傷不詳 (包圍されたため相違ある見込)	八、一八、(終戦後)永安附近に集合しつ たりたる夕刻後方にて馬が狂奔したるた め日本軍の遺棄と誤認被擄銃小銃を以つて 英精部隊を射撃し	二〇、九、一、 金着に於て作業五二大隊 後一五二大隊を編成す 大隊長 石川父子郎							
井上			死者二五、負傷一〇〇行方不明、一〇〇を 生す								
橋本			第一大隊隊員逃亡六十七名 戦死五六名								

<p>八、九 第一師団司令部に入る</p> <p>八、九 少佐の攻撃により第一師団 砲兵隊隊員主力は全隊地 により敵の攻撃を阻止 (八、一七迄)</p> <p>二〇、八、一八 金着て於いて見舞</p> <p>八、二八 落校と士官兵分隊</p> <p>九、二五 金着と間島間將校機頭(四 四名)</p> <p>落校は砲臺一金着一問島よ リ一入リ</p> <p>二〇、二二、一、 「クラスキー」落</p> <p>二〇、二二、五 別發</p> <p>二二、二、一、四 落</p> <p>落校は砲臺一金着一問島よ リ一入リ</p>				
2409				
隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部 本 隊 大 一 第	部 本 隊 第
小林	橋本	井上	少佐 前田 房夫	大佐 云松 逸雄
				家 孫
				吉 延
				吉 泰
			<p>現察敵の陣水跡にあり八、八、午前四時 王家子の分隊隊は夜間敵の攻撃を受け九日 朝六時頃隊に侵入した分隊隊はPGが出た がはらぐになり水跡に於ける本隊の戦力 は八、一八より</p> <p>八、二一、午前敵隊車二〇歩兵一少隊と 交戦</p> <p>八、二二、陣地砲臺砲車二〇歩兵一少隊 と交戦砲車五台一八日迄戦す</p> <p>落死一〇名、負傷不詳</p> <p>(包圍されたため相償もある見込)</p>	
			<p>死者二五、負傷一〇〇行方不明、一〇〇を 生ず</p>	<p>八、一八、(落校) 夜間敵に侵入し、 入りたる分隊隊員は全隊戦死したるが 少日本隊の砲臺と陣地砲臺は砲臺隊員が 砲臺隊員を保護す</p>
			<p>第一大隊隊員死亡六十七名 戦死五六名</p>	<p>二〇、九、一、 金着に於て作戦三二大隊 隊一五二大隊を砲臺す 欠陥表 云海文十名</p>

三〇三、
野田隊
任を命
せられ
名簿上
の所に
移動
欠頁五
七月と
現地照
石す

部 本 隊 第 一	部 本 隊 大 一 第	隊 中 一 第	隊 中 二 第	隊 中 三 第
六五、五五、遊遊	少佐 前田 房夫	井上	橋本	小林
家 系 吉 春				
	<p>環奈湖の南水溝にあり八、八、午前四時、 王家子の分遣隊は夜間敵の攻撃を受け九日 朝に本隊に突入した分遣隊はPGが出た がはやくはぐり水溝に於ける本隊の戦力 は八、一八より 八、一一、午前敵隊二〇歩兵一ヶ隊と 交戦 八、一一、陣地砲撃隊二〇歩兵一ヶ隊 と交戦砲撃五回一八日迄戦す 戦死一〇名、負傷不詳、 (包圍されたため相負あり見込)</p>			
八、一八、() 死者二五、負傷一〇〇行方不明、一〇〇名 生す		第一六隊陣地連亡六十七名 戦死五六名		
八、二〇、 第一六隊陣地連 戦死二六名、負傷 不詳、 生す				

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0848
0849
0850
0851

第三軍第一一二師團部隊名 歩兵第二四七聯隊 (一)

通稱號 公滿二〇三二二五五

郵便所名

全般概要		轉入 十九年以降		轉出 十九年以降		編制人員		隊別	
第四中隊		第二大隊本部		步兵砲小队		第一機關銃隊		隊長名 (内は先代を示す) (石母?) 中尉 田久保? (山口 大尉)	
内山		大尉 古川文十郎		少尉 大垣 敏男		約280 8割左隊系 12割右隊系		駐屯地	
								戰鬥間の状況及損耗	
								終戦後の人員變動	
								作業大隊より 入「ソ」迄の變動	
								隊別計	
								滿洲殘留	
								收容	

連隊司令部にて最右翼第一隊を担任す
八、一九、聯隊本部に後退する命ありて明
天卯本隊に到着するも本隊は既に瓦解され
一兵も在らず依つて瓦解のため松江へ前
進す

連隊司令部にて最右翼第一隊を担任す
八、一九、聯隊本部に後退する命ありて明
天卯本隊に到着するも本隊は既に瓦解され
一兵も在らず依つて瓦解のため松江へ前
進す

(一ヶ月)

中 四 第	部 本 隊 大 二 第	隊 小 砲 兵 步	隊 銃 關 機 一 第	別 隊
内山	大尉 古川又十郎	少尉 大垣 敏男	(右母?) 中尉 田久保? (山口 大尉)	隊長 名 (内は先代を不)
			約280	職 關人 時員 平 時 戰 時
				駐 屯 地
				戰鬥間の状況及損耗
				終戦後の人員變動
				作業大隊より 入「ソ」迄の變動
				隊別 入「ソ」人員 計
				滿洲殘留
				收容所名
				所入 死亡
				滿洲より ソ領 計
				歸還人員
				狀況不明 者 数

隊名 歩兵第二四七聯隊(二)

通稱號 滿二〇三二二五五

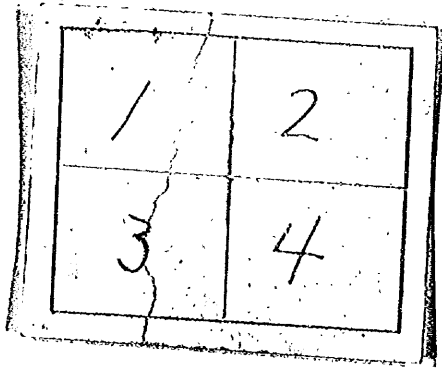
郵便所名

據泰順或地區にて最右第一隊を担任す
八、一九、聯隊本部に後退する命ありて明
天明本部に到着するも本部は既に武解され
一兵も在らず依つて武解のため密江畔へ前
進す

據奉天金華、遼寧、開原、
瀋陽、之ヲスキ、
金華に於いて兵と分離さる。

(一ヶ月)

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0649
0650
0651
0652

第三軍第一一二師團部隊各步兵第二四七聯隊(三)

通稱號 滿二〇三二二五

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人制編	別隊	隊長名	戰時	平時	戰時	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	隊別計	入「ソ」人員	滿洲殘留	收容	
第三軍第一一二師團	步兵第二四七聯隊(三)				第六中隊	渡崎												
第三軍第一一二師團	步兵第二四七聯隊(三)				第二機關銃隊	甲斐												
第三軍第一一二師團	步兵第二四七聯隊(三)				步兵小隊	深見												
第三軍第一一二師團	步兵第二四七聯隊(三)				第三大隊	長 尾形 忠行					<p>昭和十一年四月附近の陣地構築 八、九、戰鬥開始、敵機甲部隊歩兵との戰 斗を通じて同陣地撤収 戦死一〇</p>							

部隊名 歩兵第二四七聯隊 (三)

通稱 號 公 滿 二 〇 三 二 一 五 五

郵便所名

人員編		別 隊	
時 間	駐 屯 地	隊 長 名	隊 員 名
平 時	戰 時	() 内は先代を示す	
		第一	渡野
		甲斐	
		深見	
		長 尾形 忠行	
<p>戦斗間の状況及損耗 終戦後の人員變動</p>			
<p>作業大隊より 入ソ連の變動</p>			
隊別計		入ソ連人員	
満洲残留			
收容所名		收容所	
員所入		死亡	
より領		より領	
計		計	
者		者	
数		数	
<p>弾薬：柳井附近の陣地構築 八、九、戦斗開始、遊撃甲部隊歩兵との戦 斗、追奇襲陣地撤収 戦死 一〇</p>			

隊 中 七 第	部 本 隊 大 三 第	隊 小 砲 兵 步	隊 銃 關 機 二 第	隊 守 六 第
松山	長 尾形 忠行	深見	甲斐	
戦死 三〇	順泰、關原附近の陣地構築 八、九、戦斗開始、落着甲部隊歩兵との戦 斗経過奇襲陣地撤収 戦死 一〇			

隊 中 七 第	部 本 隊 大 三 第	隊 小 總 兵 歩	隊 統 團 機 三 第	隊 中 六 第
松山	長 尾形 忠行	深見	甲斐	一
戦死 三〇	<p>坂本一助城附近の陣地奪取 八、九、戦斗開始、敵軍甲部隊歩兵との戦 斗激進、敵陣地撤収 戦死 一〇</p>			